

# んみやーち (宮古方言で「ようこそ」) 宮古亜熱帯農場へ

当農場は、沖縄本島と台湾のほぼ中央、亜熱帯に位置する沖縄県の宮古島にあります。サンゴ礁に囲まれた宮古島は面積約159km<sup>2</sup>、周囲約100km、人口約5万6千、年平均気温は23.3℃、年降水量約2,000mmといった一年を通じて温暖で緑に包まれた島です。当農場は昭和61年に熱帯農学に関する実習教育と試験研究を目的に開設されました。圃場は管理基地から北方約2kmに位置し、9.5haの土地にハウスや堆肥舎などの施設が設置され露地にはサトウキビやヤマイモの生産・品種保存のための圃場、ハウスでのマンゴーを始めとした熱帯果樹などを栽培しています。その他に、試験圃場、農場研修生圃場、草地、農業機械実習用地、防風林帯などを有しています。また、ヤマイモを中心としたイモ類の遺伝資源については日本でも最大規模の数を有しています。圃場から2km程離れた管理基地には研究室を備えた管理棟や宿泊棟があり、研究者や学生達が利用しています。当農場は、熱帯・亜熱帯農業の研究と教育を実学的に行うことを目的とし、これらの研究・教育を地域の農業発展や環境保全を視野に入れつつ、地域との連携を進めるところに特徴があります。また、当農場では、青年海外協力隊員育成のための農業技術研修生制度があり、協力隊の農業隊員にチャレンジしたいけれど農業技術に不安がある卒業生に6か月の研修を行っています。留学生や海外からの研修生も来ておりますので、農業開発協力を携わる人材育成にも貢献しています。

宮古亜熱帯農場圃場全景



## ぱり (宮古方言で「畑」) はどこにある？



### 農場技術練習生募集

集まれ 実学主義者

**概要:** 高校卒業見込み者及び高校卒業後1年以内の者を対象に実習を行い、農業経営者・農業技術者となるのに必要な理論と技術を取得し、併せて健全な心身を有する有能な人材の育成を目的として、農場で1年間修業する制度です。また、技術練習生には、月額2万5千円の手当てが支給されます。また心身ともに健全かつ農場での成績が良好で最終選考に合格した者については東京農業大学および東京農業大学短期大学部の優先入試受験者として農場長の推薦を受けることができます。なお、学部によっては出身高等学校卒業時の評定平均値を条件にしています。

**内容:** ヤマイモの植え付けから始まり、ヤマイモやマンゴーなど圃場や温室の各種作物の管理・収穫、除草、防風林の整備、農業機械の操作などをします。その他、英語と生物の授業も毎週あります。高温多湿な亜熱帯の気候での厳しい1年間ですが、熱帯・亜熱帯の農業を知る上では、取得した知識と経験は将来の大きな糧になります。



問合せ先

〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里72-2  
TEL/FAX 0980-77-8393 E-mail: h3kikuno@nodai.ac.jp  
URL <http://nodai.ac.jp/farm/index.html>

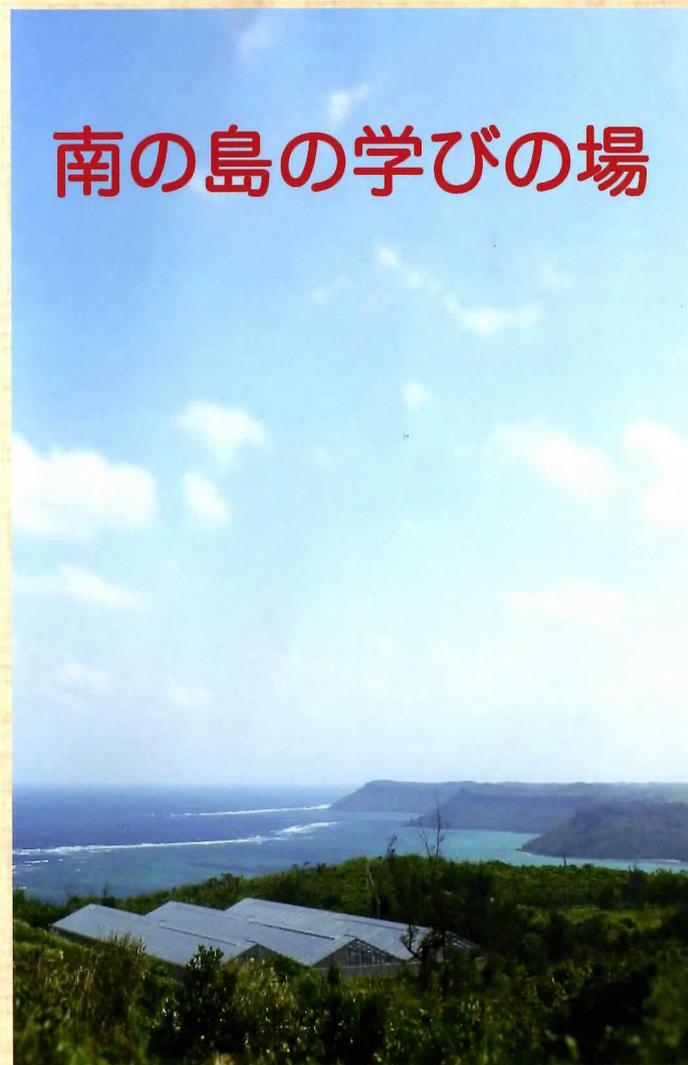
2015年1月

東京農業大学

# 宮古亜熱帯農場

<http://www.nodai.ac.jp>

## 南の島の学びの場



# [教育]



サトウキビの夏植え（農業開発実習）

# [研究]



ヤムイモのムカゴ形成の時期の調査（修士論文研究）

# [地域貢献と生産]



ダイジョ焼酎（沖縄、糸満の比嘉酒造で生産、農大生協で販売）

## 熱を感じる。風を感じる。心を感じる。 そして、農業を知る。

### 当農場の教育における3+1本柱

- 1) **実習する学生**：国際農業開発学科の3年次に農業開発実習（必修科目）があります。1、2年次の農場実習を終えた後、実習の集大成として実際の農家に入り、農家の下で実習を行います。1日半の農場での実習はヤムイモやマンゴー、サトウキビなどの熱帯作物の肥培管理や実際に一人一人が小型トラクターに試乗し、圃場を耕耘する機械実習もあります。
- 2) **未来の農大生**：1年間、農場に住み込みで農業技術を習得する農場技術練習生制度があります。心身ともに健全かつ農場での成績が良好な者は、東京農業大学および東京農業大学短期大学の優先入試受験者として農場長の推薦を受けることができます。主な進学先は国際農業開発学科であり、彼らは未来の農大生です。宮古農場で現場を知り、大学で理論を学ぶ。実学主義の理想形でしょう。



技術練習生（未来の農大生）



青年海外協力隊を目指す研修生（今はアフリカで活躍中）



フィジーからの研修生とヤムイモ挿し木苗の移植（研究する学生）



「さあ、出発！」農家での実習開始（農業開発実習）

## 地域のための研究 世界のための研究 地球のための研究

### 当農場の研究における3本柱

- 1) **地域のための研究**：当農場では、現場からの声に答えるよう、地域と連携した研究を進めています。ヤムイモについては、ヤムイモ焼酎の原料となるダイジョの肥培管理方法の開発や適正品種の選抜、宮古島の特産品であるマンゴーの出荷時期を多様化させるための花芽分化の制御などの生理・生態学的な研究を行っています。研究結果が地域農業の発展に繋がることを目指しています。



陸稲多収品種の増殖



マンゴーの新鞘伸長の調査



タロイモの遺伝資源

- 2) **世界のための研究**：ヤムイモを中心とする遺伝資源の評価、倍数性育種による新品種の評価、窒素肥料の反応性および熱帯・亜熱帯島嶼域に適応する挿し木繁殖方法の開発などは、ヤムイモを主食とする西アフリカや南太平洋諸国の農業の発展に貢献します。得られた研究結果は農大と技術提携を結んでいる国際熱帯農業研究所などを通じ、アフリカや南太平洋、カリブ海の国々に伝えることを目指しています。タロイモ、陸稲、コーヒーなど熱帯・亜熱帯の作物なども扱っています。



ヤムイモの植え付け、現場での栽培試験（卒論研究）



世界中から集めたヤムイモの遺伝資源（約100品種）

## 地域の産業、人々の発展に貢献する農場を

### 当農場の地域貢献と生産の3本柱

- 1) **地域のための研究**：当農場では、現場からの声に答えるよう、地域と連携した研究を進めています。ヤムイモについては、ヤムイモ焼酎の原料となるダイジョの肥培管理方法の開発や適正品種の選抜、宮古島の特産品であるマンゴーの出荷時期を多様化させるための花芽分化の制御などの生理・生態学的な研究を行っております。研究結果が地域農業の発展に繋がることを目指しています。



産官学連携協定（まずはヤムイモの加工品から）



地元の小学生がヤムイモ収穫体験



出荷前のマンゴー（農大教職員向けに販売）

- 2) **人々ため**：近隣の小中学校などからの児童を対象にイモ堀体験や出前講座などを行っています。農大農場が地域住民や児童・中学生に農業を知る場になってもらえることを目指しています。また、5月にはカレッジ講座など東京など都市住民が宮古島の自然観察と農業（サトウキビ収穫と黒糖作りなど）を知る企画も開催しております。一般が対象となっておりますので、基本的に誰でも希望者は参加することができます。



焼酎用ダイジョ栽培風景

- 3) **農大のため**：東京農大が沖縄本島、糸満にある比嘉酒造と技術提携を行い出来上がったヤムイモ（ダイジョ）焼酎「天恵の滴」。農大世田谷キャンパスの生協で販売しています。原料のヤムイモは沖縄本島のヤムイモ農家と当農場から出荷しています。また、当農場で収穫されたマンゴーは大学発の学生ベンチャー企業の農大農大市場（株式会社メルカード東京農大）で農大教職員向けに販売されています。



収穫されたヤムイモ、焼酎の原料となります。